

学生用书

第二册

日本語 听力

华东师范大学日语系集体编纂

主 编	杜 勤
编写者	王丽薇
(按姓氏	刘 杰
笔划排列)	李道荣
	杜 勤
	沈丽丽
	陆留弟
	徐敏民

华东师范大学出版社

出版说明

随着我国对外交往的扩大,国内对多种语言交流的需求明显增加,日语在政治、经济、文化等领域中的使用也日益频繁。为适应这种情况,我们规划出版一套《日语听力》教材,并委托华东师范大学外语学院日语系编写。本教材被列入国家九五音像制品重点出版规划。

《日语听力》是配合大学日语专业一至四年级上精读课本教学所使用的配套听力教材,共分4册。每册又分教师用书、学生用书,每册学生用书配录音磁带。各册设分册主编,主持编纂事宜。接受编写任务的教师们对于本教材的编写,倾注了极大的热情。他们在多年从事日语教学的基础上,参考东京外国语大学等日本高等学府所编写的母语教育读本,翻阅了大量的资料,对本教材的编纂和听力内容的编排提出了不同于现行一般教材编写的全新思路。其特点之一,在于突破了援用现成的日语出版物进行作业的通行编写模式,所用范文多由编写人员根据需要编撰,体现了较高的独创性。特点之二,是教材的听解内容准确地把握了中国学生较难掌握的薄弱环节以及日语特有的语音、语言现象,在设计上注意切合日本实际社会生活场景,语言真实度较高,从而最大限度地实现了教材与日本现实生活的磨合。特点之三,表现为设问方式灵活多变,注重学生综合听能的提高,同时启发学生用日语思考、解答问题,培养学生的日语实际应用能力。这些努力都是力求使本教材更好地体现实用性、准确性和时代性。

本教材的编写得到了日本国际交流基金会日语国际中心的支持和资助,使编写人员能赴日就教材的编写,与日本国内一流语言机构的专家、学者进行切磋,并在他们的帮助下逐字逐句地修改、审定教材内容。可以相信,本教材无论内容还是形式都会达到国内最好水准。在此,我们对全体编写人员,对日本国有关机构、学校和专家,表示深深的

敬意和衷心的感谢!

本教材将于 2000 年出齐。我们诚挚地希望从事日语教学和研究
的专家、学者以及广大读者对本教材提出宝贵意见,以便我们不断改
进,精益求精。

华东师范大学出版社

1998 年 5 月

前 言

继《日本語听力》第一册今年9月出版之后,《日本語听力》第二册在系全体同仁的不懈努力下也与读者见面了。教材开发是实现符合时代需求之教学理念的必要程序,同时也是一项筚路蓝缕的工作。本册教材的问世是编写者们长期在日语教学第一线辛勤耕耘、集思广益的结果。

本册教材编写人员(以姓氏笔画为序)及分工情况如下:

王丽薇(第6、18、22、26课);刘杰(第4、7、11、15课);李道荣(第5、10课);杜勤(第1、2、12、14、28课);沈丽丽(第3、13、16、17、29课);陆留弟(第19、20、21、24、30课);徐敏民(第8、9、23、25、27课)。

第二册的编写与第一册同样,有幸得到了日本国际交流基金会“*Japanese—Language Education Fellowship Program*”的大力支持,从而为编写工作提供了有利的条件。有关成员应邀赴日,在日本学习院大学文学部教授、社会言语科学会会长、国语学会代表理事(会长)德川宗贤先生的热情指导下,主编对初稿进行了全面的修改,并征求多方人士的意见直至通过审核定稿。

语言扎根于丰腴的生活沃土之中,富有广泛的文化内涵,同时还生动地传导着时代的信息。本册教材内容上辐射面广,语言文化、传统艺术、宗教思想、教育、礼仪习俗、政治、自然、衣食住行、社会问题均有涉及,较全面地勾勒出日本社会、文化的全貌,从而体现出较强的知识性和趣味性。同时在内容上注重把握时代的脉搏,反映的问题、引用的统计数据切合日本社会的现状,从而体现出较高的时效性。听力训练的范文由编写人员自行编写而成,突破了依赖现成日语出版物进行编纂的通行模式,从而体现了较强的独创性。

《日本語听力》第二册除了供大专院校日语专业二年级使用外,还适用于广大业余日语爱好者。本册教材共30课,每课由“本文”和“会话”组成,“本文”分“关键词”、“回答问题”、“正误判断”三部分;“会话”分“辨音”、“选择”、“填空”、“熟语·谚语”四部分。

本册教材单词表由华东师范大学出版社日语编辑陈丽菲编写,录音工作由渡边薰子、大西耕司、佐原弥惠担任。本教材在赴日编写过程中,还得到了日本一桥大学社会学部教授三谷孝先生的热情帮助和指导。在筹划和制作过程中得到了华

东师范大学出版社朱杰人社长、陈朴副社长、陈丽菲女士、赵金土先生的鼎力支持。

本册教材付梓之际,我们谨向所有曾经关心过我们的团体及人士鸣谢致意,同时诚挚地期待着专家们和广大读者提出宝贵的意见,以便我们进一步修订,使本册教材日臻完善。

杜 勤

1998年12月

目 次

第 1 課	相づちと身体言語	1
第 2 課	日本語に見る「和」の精神	4
第 3 課	高齢化社会	7
第 4 課	女性の社会進出	10
第 5 課	暮らし方の意識変化	13
第 6 課	贈答	16
第 7 課	学歴社会	19
第 8 課	家庭生活	22
第 9 課	いじめ問題	25
第 10 課	環境と健康	28
第 11 課	ビジネスマナー	31
第 12 課	日本人の名前と人称代名詞	34
第 13 課	「恥の文化」	37
第 14 課	稲作文化	40
第 15 課	宇宙探険	43
第 16 課	放送大学	46

第 17 課	日本人とマンガ	49
第 18 課	日本人と温泉	52
第 19 課	漢字と日本語	55
第 20 課	茶道	58
第 21 課	華道	61
第 22 課	島国・山国	64
第 23 課	非行問題	67
第 24 課	和魂漢才	70
第 25 課	住宅事情	73
第 26 課	食生活	76
第 27 課	結婚式	79
第 28 課	好きな数字と嫌いな数字	82
第 29 課	阪神・淡路大震災	85
第 30 課	政治の仕組み	88

付録

単語索引	93
------	----

第1課 相づちと身体言語



問題 I. テープを聞いて、後の問いに答えなさい。

キーワード

頷く 円滑 タイミング 間隔 いたわり 心遣い 根ざす

1. 質問に答えなさい。

- (1) 相づちとはなんですか。
- (2) 相づちには具体的にどんなものがありますか。
- (3) 相づちを打つことによって、話し手にどんなメッセージを送りますか。
- (4) 相づちはいつ打ちますか。
- (5) 相づちはどんな働きがありますか。使わないと、どうなりますか。

2. 「いたわり」的な言語行動は必ずしもプラス効果をもたらしません。プラス効果をもたらすと思うものに○、マイナス効果をもたらすと思うものに×をつけなさい。

- (1) 留学生の話す日本語が所々おかしいので、その場で直してあげるべきでしたが、恥を搔かせると悪いと思って、遠慮しました。 ()
- (2) (立食パーティーでボーイに料理を勧められて)ありがとうございます。いまのところ結構ですから。また食べたいときにはお願いします。 ()
- (3) 抗議したかったんですが、お子さんはうちの子と同じ学校だし、どうもねえ。 ()
- (4) a. すみません、あの……、傘が……。
b. あら、お洋服を濡らしちゃって、ごめんなさい。気が付かなくて。
c. いいえ、混んでいますから。 ()

a. また、_____、お金のことを表しますけど。

b. これも中国では通用しませんね、_____。
_____。

a. ところが、双方が小指同士を絡ませるのは、中日両国では_____
_____を表しますね。



日本人には他人とは一切関わらないという暗黙のルールとして「三^{さん}猿^{ざる}」があります、その内容を示してください。

(1)

(2)

(3)



第2課 日本語に見る「和」の精神



問題Ⅰ. テープを聞いて、後の問いに答えなさい。

キーワード

聖徳太子 言い切らない 婉曲 曖昧 察する 真意 推測

1. 質問に答えなさい。

- (1) 日本人はどんなことに気を配りながら、会話を交わしますか。
- (2) 最後まで言い切らない婉曲な表現の目的とはなんですか。
- (3) 「もう結構です」というのは本来はどんな意味ですか。
- (4) 婉曲な表現を本文から三つ挙げてください。
- (5) 相手の言い方がはっきりしない場合、その真意を掴むには、どんな方法がありますか。

2. 次の文がテープの内容と合っていれば○、違っていれば×をつけなさい。

- (1) 日本人は相手の気持ちを察しながら、意見の相違をできるだけ避け、対話を成立させていきます。 ()
- (2) 日本語では英語の「No」と同じ意味で「いいえ」を使うと、人間関係の「和」が壊れる恐れがあります。 ()
- (3) 「もう結構です」というのは、「もう十分いただきました」と感謝の意を込めて断る言い方です。 ()
- (4) 日本人がものをはっきり言わないのは自分の意見主張をごまかしたいからです。 ()
- (5) 日常会話ができ、辞書を使えば新聞の記事が読める人は日本に行けば、すぐ日本の社会に溶け込めます。 ()

言われた人はあまり良い感じがしませんね。

- b. あ、そうですか。ところで、その「……ですけど」の「けど」の意味ですが、
ちょっとピンと来ませんね。
- a. それはですね。実はそのあとに「_____」というよう
な言葉が省略されているのです。そのために、「_____」と
_____。



「和」の精神を特徴づける言葉をもう三つ勉強しましょう。

(1) 思いやり

(2) 遠慮

(3) いたわり



第3課 高齢化社会



問題Ⅰ. テープを聞いて、後の問いに答えなさい。

キーワード

「寝たきり」老人 痴呆性老人 生涯学習 ボランティア 介護

1. 質問に答えなさい。

- (1) 1996年の統計によると、日本人の平均寿命は男性と女性がそれぞれ何歳でしたか。
- (2) 高齢化が進むと、どういう家族形態やどういった老人が今後急増していくと予想されますか。
- (3) 高齢化社会が抱える最大の悩みはなんですか。
- (4) 本格的な高齢者社会の到来に対応するために、どんな対策が必要となるのでしょうか。
- (5) 第二の人生をいかに過ごすべきでしょうか。

2. 次の文がテープの内容と合っていれば○、違っていれば×をつけなさい。

- (1) 1996年、日本人の平均寿命は男性が女性を上回りました。 ()
- (2) 高齢化現象が進むほど国家財政に負担がかかります。 ()
- (3) 「寝たきり」老人や痴呆性老人はいろいろな身体障害を持ち、特に介護を必要とする人たちのことです。 ()
- (4) 「核家族」という、老人とは別に暮らす家族形態が、年々増えつつあります。 ()
- (5) 第二の人生とは本職のほかに、副業もやることを指します。 ()



問題Ⅱ. テープを聞いて、後の問いに答えなさい。

はじめに

- (1) 弱者 a. よわもの b. よわいもの c. じゃくしゃ
(2) 培う a. つちかう b. やしなう c. そこなう
(3) 厄介者 a. かくかいもの b. やっかいしゃ c. やっかいもの

1. 質問を聞いて、会話の内容と合っているものを、a b c の中から選んで下さい。

(1)	(2)	(3)	(4)

2. もう一度会話を聞いて、全文を完成しなさい。

- a. 最近の年寄りを見て、感心しちゃいますね。
b. どうして?
a. 私は _____ に神戸を訪れましたが、以前大工をしていた高齢の男性に会いました。
b. それで……。
a. 彼は、地域の人たちのために、_____ なっていました。「 _____ 」という言葉が印象的で、その時の目はほんとうに _____ よ。
b. なるほど。年寄りが社会奉仕をするのは素晴らしいことですね。私の近所にも定年になっても、仕事をし続ける人がけっこういるらしいんですよ。
a. _____ 時代になってきましたよね。
b. だから、年寄りも自分なりの生き方、楽しみ方を探し、実践を始めているような気がしますね。
a. そうですね。普通「高齢者」には _____ がつきものですが、実は、彼らの中には _____ しかいませんから、残りの少なくとも八割の人たちは元気であるばかりでなく、 _____ ね。

- b. ですから、この人たちは _____、 _____
_____ ね。
- a. 昔は人生 50 年と言いましたが、今は70、80まで生きられますからね。
- b. そうですね。それなら、 _____ かもしれませんね。



年長者の経験の尊さを表す諺を勉強しましょう。
亀の甲より年の功

